

倉敷中央病院呼吸器内科専門修練医募集

【概要】

主任部長 石田 直（いしだ ただし）

医師数 スタッフ 9 名、専門修練医 5 名、シニアレジデント 5 名

内科学会専門医 12 名、指導医 6 名、呼吸器学会専門医 8 名、指導医 6 名、

呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 3 名、指導医 2 名、感染症学会専門医 3 名、指導医 3 名、

アレルギー学会専門医 2 名、指導医 1 名、化学療法学会抗菌薬臨床試験指導医 1 名、

化学療法学会抗菌化学療法指導医 1 名、認定医 1 名

結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医 2 名、認定医 1 名

米国胸部医学会フェロー 1 名、インфекション・コントロール・クター 3 名、呼吸療法医学会指導医 1 名

がん薬物療法専門医 1 人、がん治療認定医機構がん治療認定医 2 人、経営学修士（MBA）1 名

当科は、現在スタッフ 19 名、病床 90-100 床を有する日本でも屈指の規模を持つ呼吸器内科です。あらゆる呼吸器疾患を扱いますが、特に呼吸器感染症、肺癌、間質性肺炎の分野では、本邦の先進的立場にあります。国内外の学会活動、講演や論文投稿も積極的に行っています。当科の研修により、急性期治療、集中治療も含め数多くの症例を経験でき、呼吸器内科医として十分な力量を養成できます。

呼吸器内科が担当する疾患分野は、腫瘍、感染症、アレルギー、免疫、各種呼吸不全と多岐にわたり、また救急疾患の多い科です。そのために幅広い知識と実践的な臨床能力が要求されます。当科では年間に入院患者約 2000 例、外来延べ患者約 25000 例の診療に当たっており、豊富な臨床経験を積むことが可能です。特に感染症やびまん性肺疾患の領域では全国でも屈指の症例数を有しており、日本呼吸器学会の肺炎ガイドラインや咳嗽ガイドラインの作成に参加しています。西日本がん研究機構や厚生労働省の斑研究を中心とした臨床試験および最新の治験にも数多く参加しており、標準治療は言うまでもなく最新の治療についても経験・習得できます。日本呼吸器学会認定指導施設、日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡指導施設、日本感染症学会研修施設、日本臨床腫瘍学会研修施設、日本アレルギー学会認定教育施設を標榜しています。

当院では、シニアレジデント修了後の医師に対しても専門修練医（オーバーシニア）として若干名を募集しています。スタッフとしてジュニアやシニアレジデントの指導に当たるとともに、希望の専門性を指向した研修と臨床研究が可能です。内科シニアレジデントを修了して呼吸器専門医を目指したい人は、是非応募をご検討ください。期間はシニア修了後の 2 年間（卒後 6-7 年）ですが、卒後 7 年目以降からの編入も可能です。

【一般目標】

多様な呼吸器学臨床の全てを経験、理解し、独自で呼吸器疾患の診断、治療、コンサルトが可能となるよう研修する。また、臨床研究のうえでは呼吸器のなかでもさらに感染症やアレルギー、腫瘍等の専門性を指向して将来全国（世界）レベルで活躍できる医師を目指す。専門に偏らず、内科全般的な知識の取得にも努める。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
AM		呼外科、放射線科との IA カンファレンス	グループカンファレンス	LK 抄読会 病棟廻診	
PM		気管支鏡検査	気管支鏡検査 MDD カンファレンス	気管支鏡検査 他院との MDD カンファレンス	
夕刻～	全体カンファレンス LK カンファレンス IP カンファレンス	外科との合同 カンファレンス 薬剤説明会	レジデント勉強会 肺炎カンファレンス LK カンファレンス	全体カンファレンス 抄読会	

【専門医などの取得】

呼吸器学会専門医（学会所定の研修カリキュラムに従い日本内科学会認定内科医資格を取得した年度も含めて 3 年以上、呼吸器病学の臨床研修を行うこと）、呼吸器内視鏡学会専門医あるいは subspeciality の専門医取得を目指す。

【専門修練医修了後の進路】

大学院進学または医員として大学医局に入る（希望の大学医局可能）。他の病院にて臨床を続ける（京大呼吸器内科では、関西地方を中心に 50 以上の関連病院を有しており、何れの病院においても呼吸器内科医は不足しているため需要は多い。もちろん他大学の関連病院や医局人事を離れての病院赴任希望があれば紹介は可能。当院でスタッフとして残留する。などの進路が考えられるが、本人の希望を可及的尊重したい。